

団体名		栃木県メディアボランティア（栃木県宇都宮市） http://www8.plala.or.jp/hikoki/t-media-vol-index.htm	
団体の概要	活動開始年	西暦 2002年 6月 活動開始	
	メンバー	人数	<役員数> 代表 1名、副代表 2名 <ボランティア数> 30名
		構成	学生、主婦、会社員、定年退職者など幅広い年代の人たち
	予算規模	平成13年度概算 ・収入 なし ・支出 なし	
団体の目的		当会は、栃木県総合教育センター内学習情報センター及びIT講習で導入した設備などを利用して、県内のパソコン初心者を対象に、パソコンの基本操作に関する疑問・悩みなどを解決するための支援をする。	

ボランティア活動の概要

毎週土曜日の午後1時半から2時間、栃木県総合教育センター内において、パソコン初心者を対象にしたパソコン相談会を開催している。相談の受付を前日の金曜日までに総合教育センターでまとめておき、当日その受付票をもとに会員が対応する。相談者は初心者がほとんどで、1日あたり5～6人。マンツーマンによる丁寧な対応が相談者の満足度につながっていて、リピーターも多い。

月1回以上、ボランティア会員による会員のための勉強会を開催して、相互にスキルアップを図っている。公共団体などが開催する講座のボランティア講師も引き受けている。

ボランティア活動を立ち上げた経緯

栃木県が平成13年度より行っていたIT講習会が回数を重ね、講習修了生が多くなるにつれて、修了生へのアフターケアの必要性が高まった。そこで、県総合教育センターが生涯学習ボランティアセンターに登録されているパソコンの得意な人たちに呼びかけを行った結果、17人が集まって14年6月から無料相談会を行った。その後、その17人が自主運営をめざし、団体を立ち上げた。

組織運営の概要

リーダーや役員の選出方法は役員は会員の互選。役員の任期は1年とし、再任は妨げない。意思決定の方法は、会則に定めるほか、メディアボランティアの活動に関する必要事項は代表が栃木県総合教育センター内学習情報センターと協議して定めることにしている。

メンバー募集はほとんどが既会員による口コミ。またWEBページによる募集も行っており、

若干の申し込みがある。

元気に活動している要因

<要因1：メンバー間の意思疎通に関する工夫>

「メーリングリスト」とWEB ページ上に「仮想イントラネット」を開設し、連絡やパソコン操作に関する疑問などの解決のために活用している。

<要因2：活動を長続きさせるための工夫>

毎週開かれる相談会の終了後、30分程度の反省会を開き、問題点の解消と会員相互のパソコンに関する情報交換などを行う。相談会に出席したときに、会員自身にもスキルアップや仲間との連携などのメリットがあるようにしている。

<要因3：他団体との連携方法>

代表が積極的に他団体の会合などに参加するようにしている。

<要因4：教育センター内学習情報センターとの連携>

ボランティアのニーズに応え、さらに活動の場が広がるように、教育センターとの連携を重視している。具体的には、ボランティアの中でプレゼンテーションソフト「パワーポイント」についての要望があったので、ボランティアのために教育センターで研修を行った。さらに、研修を受けた人の中から、県が開催したパワーポイント研修のサブ講師をしてもらった。

今後の課題と展望

現在、小山市と氏家町で同様の活動が展開されようとしているので、当会のメンバーが中心的な役割で参画できるように、働きかけていきたい。さらに、栃木県内に活動の輪が広がるような活動を行っていきたい。

ボランティアのスキルアップを図るために、講師養成講座を行って、研修の講師ができるような人材を育てたい。

(団体代表者によるレポート、団体資料より作成)

<この事例のポイント>

団体 PR の「会員の自主的な参加が最重要と考えているので、自由な雰囲気大切にしている。参加すると楽しくなるように心掛けている。」という言葉が、元気にボランティア活動をしていく秘訣そのものである。

メーリングリストや仮想イントラネットを利用して、メンバーの意思疎通を図っていることは、メンバー間に情報が共有化されており、情報の偏りが無い。今のところ、代表は、立ち上げ当初から変わっていないが、リーダーや役員の選出方法は互選としているので、メンバーが平等に責任や役割を担う水平型の組織を目指しているといえる。

さらに、他の団体をかけもちできるゆるやかな参加形態は、オープンで、閉鎖性がない。かけもちすることによって、情報や人の交流が生まれ、ネットワークができて、自分達の活動の活性化につながっていくという、プラス思考は注目に値する。

この団体の成り立ちは、IT 講習会のフォローアップという県のニーズに協力したことによる。一方、団体の事務局と活動の場は教育センター内にあり、教育センターはボランティアのスキルアップのために研修を開くなど相互に協力・連携をしている。県の教育センターとの良好な関係が安定した活動を支えている。



<パソコン相談会の様子①>



<パソコン相談会の様子②>